

アサダ

Ostrya japonica Sarg.

カバノキ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

県内の生育地は数箇所に限定されており、また個体数もごく少ない。全国的にも少ない種類で、温帯林の伴生種として貴重である。(現況:RO)

形態

樹皮は浅く縦割れして小薄片に剥がれ、逆むけ状に反り返る特有な様相を示す。葉は互生し、毛および腺毛におおわれる葉柄がある。葉身は狭卵形または広楕円形、鋭先頭、基部は浅い心形で、重鋸歯がある。雄花は黄褐色、雌花は帯紅色となる。

国内分布

北海道(中・南部)～九州(南限は霧島山)にかけて分布する。

県内分布

外浦区、中能登区、南加賀区に隔離分布している。

生態など

高さ15～20mになる落葉高木である。外浦区ではスダジイ林の構成種としてウラジログシ、イヌシデ等とともに出現している。開花期は5月。果実は大きな苞葉が接しあっている中に包まれている。

生育環境

標高800m以下のブナ林などの落葉樹林内に混生するが、向陽の山地を好む。

危険要因

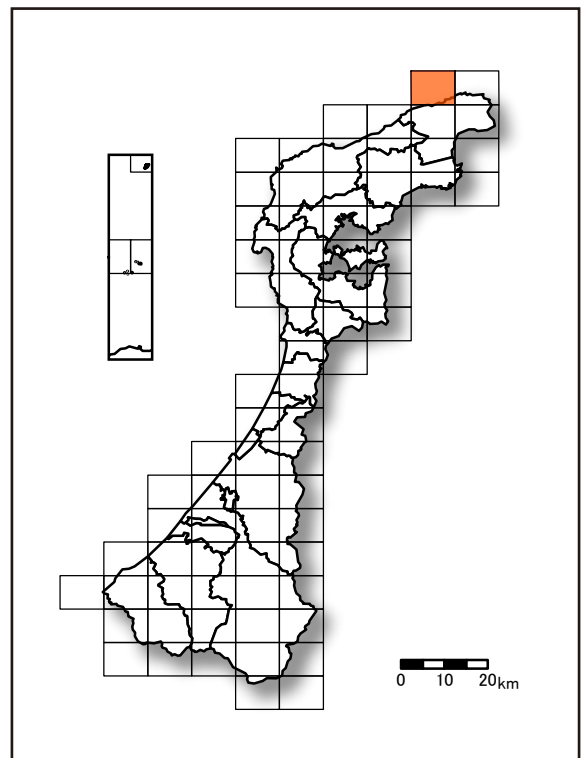
森林伐採、土地造成。

特記事項

外浦区の生育地は特定植物群落であり、能登半島国立公園のなかに位置する。



濱野一郎・2002年9月16日



県内の分布